

九月十八・十九日は愛知本社へ
九月二十日は東京本社抗議へ！

第二の山場に突入したフィリピントヨタ労組の闘い！

トヨタとフィリピン政府への抗議と

フィリピントヨタ労組への激励を！

フィリピントヨタ労組を支援する会 http://www.geocities.jp/protest_toyota/
全造船機械労働組合関東地方協議会

二〇〇一年三月フィリピントヨタの団体交渉拒否、組合員二三名の解雇、フィリピントヨタ労組（TMPCWA）の全面ストライキ、そして四月九日アロヨ政権のストライキ中止・職場復帰命令・ピケット排除、この時期がフィリピントヨタ労組の闘いの第一の山場であった。（この間の闘いについてはフィリピントヨタ労組が作成したCDで映像を見ることがができる。）

世界から包囲されたトヨタ！

この後二〇〇一年七月の高裁におけるTMPCWAの団体交渉権の借り差し止め命令、二〇〇三年二月の高裁での解雇有効判決と、後退局面が続く。TMPCWAはこの困難な時期をよく持ちこたえ、反撃に移る。二〇〇三年九月フィリピン最高裁は高裁の団体交渉権仮差し止め命令を破棄する。同年一月ILO結社の自由委員会はフィリピン政府に対し、「解雇者を職場に戻し、刑事訴訟を取り下げ、団体交渉を行う」ための必要な措置を行うよう勧告する。そしてTMPCWAの全造船関東地協加盟、トヨタ本社の団体交渉拒否を受けて、二〇〇五年二月全造船関東地協は神奈川県労働委員会に不当労働行為救済申し立てを行った。労働委員会はこれを受理し、今トヨタ本体は労働委員会の場に引きずりだされている。私たちは一步一步ポイントを増やし、トヨタを世界的に包囲してきた。むろんトヨタもこれをただ座視していたわけではない。彼等は、時間と金をかけ、御用組合TMPCLOを組織してきた。

攻防は第二の山場へ！

そして二〇〇五年二月この御用組合は団体交渉権獲得の選挙（CE）を申請するまでに成長した。フィリピントヨタ労組は直ちに不当労働行為でトヨタを訴え、ストライキの通告を行った。このストライキ通告を受けて国家調停斡旋委員会が調停に入り、四月一九日労使双方に「無条件で団体交渉に入る」よう斡旋案を提示した。フィリピントヨタ争議はトヨタに「団体交渉かストライキか」を迫る新たな山場に突入した。

あらゆる個人・グループ
団体に訴える！！

トヨタ・フィリピン政府への抗議を！ フィリピントヨタ労組への激励を！

トヨタはこれへの回答を回避し続けた。そしてここへアロヨ政権が再びトヨタ救済の手を差し伸べた。労働雇用省は、六月三日トヨタ御用組合の団体交渉権承認選挙申請を認め、TMPCWAとTMPCLO(御用組合)による選挙の実施を決定した。御用組合選挙申請への過半数の現場労働者の署名を得て労働雇用省とトヨタは意気揚々であった。それに対してTMPCWAは選挙を受けて立つと表明した。いま第二の山場は当初の想定とは全く異なつた形になった。

承認選挙参加決断

フィリピン労働法の下では、労働組合は団体交渉権を得るためには公式の選挙で過半数を獲得しなければならない。そしてこの交渉権は五年間有効である。ただし、労働雇用省規則では、団体交渉中であるか、労使交渉で問題が解決せず争議中である場合、「新たな承認選挙を行ってならないことになっている。したがって六月三〇日のアロヨ政権の後押しを受けた労働雇用省の決定は完全に不法であり、TMPCWAはこれを拒否することができる。しかし例え拒否しても選挙は実施され、政府とトヨタはその結果を押しつけて来るに違いないとTMPCWAは判断した。フィリピントヨタ労組は、「この承認選挙は全く不当なものだと考えているが、さらに決定的にフィリピントヨタを追い詰める手段として承認選挙への参加を決めた。

世界の注視を！

私たちの国際的包囲に追い詰められたトヨタは、フィリピン政府の助けを借りて、死期回生の手段として御用組合の承認選挙に打って出た。彼等は金と権力を使って御用組合TMPCLOの活動を全面的に擁護し、フィリピントヨタ労組TMPCWAの活動を妨害している。また、フィリピンの承認選挙は、解雇未確定の被解雇労働

者を含む一般労働者が選挙資格を持っている。しかし、トヨタは、一五〇人近くの解雇未確定の被解雇労働者を排除し、監督職労働者を三〇人程度潜り込ませようとしている。そして労働雇用省はこの会社側主張を強引に支持し、御用組合を援護する可能性がある。

この苛酷な条件の中で闘っているフィリピントヨタ労組を激励してもらいたい。そして、私たち世界の世論が、トヨタとフィリピン政府の不正なやり方をしっかりと見ていることをトヨタとフィリピン政府につたえてもらいたい！

TMPCWAへの

激励の嵐を！

被解雇者二二三人のうち約一五〇人が組合員で残っている。しかし、その五〇％が失業中である。七〇％が妻帯者で、そのほとんどに子供がいる。この五年の歳月の間には当該、そして家族の死者も出た。事実上の離婚もでた。フィリピンではトヨタから解雇というブラックリストに載ると就職は困難なのだ。こうした苛酷な生活条件の中で彼等は退職金を拒否して闘いを継続している。彼女や彼等を支えているのは、トヨタへの怒りであり、同胞への辱めを自分への辱めと感ずる感性であり、子供や孫や若者たち、未来の世代に現在の世界とは異なつた公正な社会を残したいという欲求である。

あらゆる個人、グループ、団体に訴える！彼等を励ましてほしい。トヨタとフィリピン政府に抗議してほしい。激励・抗議の方法は、フィリピントヨタ労組を支援する会「のホームページ」緊急要請欄」を参照していただきたい。

九月十八日(日)から九月二十二日(木)の愛知・神奈川・東京連続行動への参加を願いたい(詳細はホームページ参照)